

## 市場規模 13 兆円！廃棄物処理・リサイクル市場を独自に分析

全ての企業、金融機関、投資家に贈る

# サーキュラーエコノミー実現のバイブル 「再資源化白書 2021」 発売

2021年6月30日（水）

静脈産業 1,000 社・9,500 カ所の中間・最終処理場へ調査を実施

事業者向け環境/廃棄物マネジメントのパイオニアである株式会社サティスファクトリー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：恩田英久）は、静脈産業※1,000 社からアンケートを得た独自調査、全国各地に立地する 9,500 カ所の中間処理場および最終処分場への多面的な調査・分析を基に、廃棄物業界の最新動向データ『再資源化白書 2021』を 2021 年 6 月 30 日（水）に発売いたします。

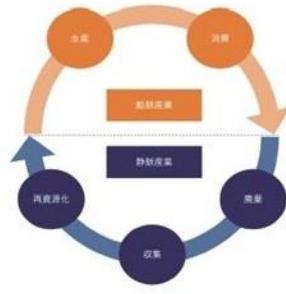


図 1-3 循環産業と静脈産業

持続可能な循環経済を実現するためには「循環産業」「静脈産業」双方における変革が必要不可欠である。「循環産業」が循環経済を前提としてモノを生み出し、「静脈産業」は後工程から前工程にループさせる回収・再生利用・再資源化を担っていくことが求められる。

これまで静脈産業は循環産業に比べると脇役に過ぎなかった印象がある。特に国内においては静脈産業に大企業がほとんど存在せず、世界でも自動車やアパレル業界などの循環産業企業と比べると知名度のある企業は少ない。本書は循環経済の中核を担うにも関わらず、あまり脚光を浴びてこなかった静脈産業に着目していく。

### 第3節 本書の目的と章の構成

本書は静脈産業に焦点を当てながら、循環経済に留む全ての企業の指図書となることを目指している。

本書の構成だが、まずこの 1 章は主題と内容や本書の目的について記載している。次に、2 章・3 章では日本の静脈産業の市場概況、政府や技術革新など外部の環境分析をおこなうことで日本の静脈産業に何が起きているのかを述べていく。その根拠として 1,000 社以上にも及ぶ廃棄物処理業者へのアンケート調査結果を交えて、より現実を即した処理業者の状況や業界事情を理解していく。4 章では欧州・アメリカ・中国などの静脈産業の動向を見ることで、諸外国ではどのようなことが起きているのか、日本として参考にするべきことは何かを考察していく。そして 5 章は世界・日本の産業別動向を整理する。静脈産業

は産業ごとに廃棄物の種類や処理構造が異なっており、より深い理解のためには産業別の分析が必要不可欠である。さらに解決すべき課題とその課題に対するソリューションを提案する。最後に 6 章では結論として今後企業はどうあるべきか、世界の環境が大きく変化していく中での循環産業・静脈産業それぞれの役割を伝える。

目次	
1章 はじめに	
2章 静脈産業の現状	
3章 世界の動向	
4章 日本の現状	
5章 課題とソリューション	
6章 まとめ	

静脈産業全体	産業別
<b>現状と変化</b> <ul style="list-style-type: none"><li>2章 日本の静脈産業の現状<ul style="list-style-type: none"><li>■ 現状はどのような状況か</li><li>■ どのような課題があるのか</li><li>■ 日本の静脈産業をめぐる外部環境</li><li>■ どのような変化が起きているのか</li></ul></li></ul>	<b>世界の動向</b> <ul style="list-style-type: none"><li>3章 産業別・世界の動向の現状<ul style="list-style-type: none"><li>■ 各産業に対して世界の静脈産業はどのような状況か</li><li>■ 世界の中では日本はどのような特徴があるのか</li></ul></li></ul>
<b>世界の動向</b> <ul style="list-style-type: none"><li>4章 世界の静脈産業の動向<ul style="list-style-type: none"><li>■ 世界ではどのような状況か</li><li>■ 日本が参考にすべき動向はあるか</li></ul></li></ul>	<b>日本の現状</b> <ul style="list-style-type: none"><li>5章 産業別・日本の静脈産業の現状<ul style="list-style-type: none"><li>■ 各産業に対して日本の静脈産業はどのような状況か</li></ul></li></ul>
	<b>課題とソリューション</b> <ul style="list-style-type: none"><li>6章 産業別・課題とソリューション<ul style="list-style-type: none"><li>■ 各産業において解決すべき課題は何か</li><li>■ どのように解決できるか</li></ul></li></ul>
	<b>まとめ</b> <ul style="list-style-type: none"><li>7章 今後の展望と期待<ul style="list-style-type: none"><li>■ 社会のルールが定まる中で循環産業・静脈産業は中核どうあるべきか</li></ul></li></ul>

図 1-4 本書の構成

### 第4節 本書の対象範囲

静脈産業において、排出物は有価物と廃棄物に分類される。有価物は、基本的に有価で譲渡することが可能な経済上価値がある物で、廃棄物は、占有者が自ら利用または他人に有価で譲渡することができないために不要となった物である。さらに、廃棄物は事業活動によって生じる産業廃棄物や事業系の一般廃棄物と家庭での日常生活で生じる家庭系一般廃棄物に分かれる。本書では主に有価物・産業廃棄物・事業系の一般廃棄物を中心に議論する。ただし、産業によっては市中にある一般廃棄物が課題の中心である場合もあるため、一部では一般廃棄物にも触れている。

※『再資源化白書 2021』イメージ

# Satisfactory

本書では、現場から集めた生の声と調査データで、日本の静脈産業に根付く廃棄物や資源物の地域分散的な処理事情を分析しています。

既に公表されている関連データは国や省庁、団体によって前提条件が異なり、情報の比較や一元化が難しい中で、それらのデータを読み解き、適切な方法で比較分析を行いました。その結果、定説の立証にとどまらず、これまでにない傾向を数多く発見することができました。

それらのデータに基づき、縦割りの業界構図、弊害を解決する廃棄物マネジメント業の視点で、再資源化を拡大するためにあるべきインフラについて考察しています。

本書は、静脈産業や排出事業者の方をはじめ、金融機関や報道機関の方々、広報やIR、サステナブル推進室ご担当者様、地方自治体及び環境関連団体の方々にとって、今後の施策や事業活動の一助としてご活用いただけます。SDGs 目標の「つくる責任 つかう責任」や環境対策に関わる目標達成に向けて、お役立ていただけますと幸いです。



## ■白書発行に至った背景

21世紀に入り、日本では大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済システムから脱却を目指し、環境負荷を低減する循環型社会の構築が進展しています。本書では、循環経済の中核を担っているにも関わらず、あまり脚光を浴びてこなかった静脈産業に焦点を当てながら、循環経済に悩む全ての企業の指南書となる事を目指し、日本企業全体の廃棄物に対する意識改革に繋げるべく、白書の発行に至りました。

## ・世界で求められる『循環経済』への移行

20世紀に入り、人類は急速な発展を遂げ、産業革命によって社会活動を通じたモノの流れが増大し、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムが構築されました。人類が急速な経済的繁栄を成し遂げる一方で、消費される資源・エネルギーの増大及びそれに伴う廃棄物の大量発生等環境に対する様々な悪影響が生じています。つまり、産業革命後の「採って、作って、捨てる」という一方通行型（線形）の社会モデルは限界に達しつつあり、既存の資源を循環させて価値を生むという概念「サーキュラーエコノミー（循環経済）」が求められています。

# Satisfactory

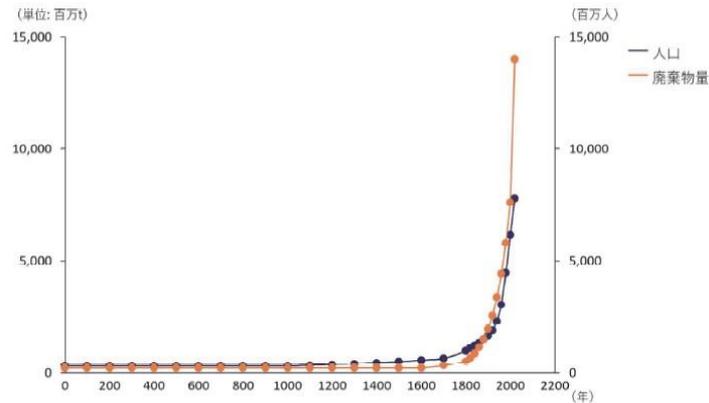


図 1-1 世界人口と廃棄物量の推移

[United Nations, 2019] [廃棄物工学研究所, 2020] [The World Bank, 2018]

## ・逃れられない排出事業者責任

日本の法律（廃掃法第一章第三条）では、事業者は廃棄物を自らの責任において処理しなければならない、再生利用等を行うことによりその減量に努めるという大原則があります。しかし、多くの事業者は自らの処理能力を保持していないため、処理業者に「作業工程」（運搬・中間処理・再利用・最終処分）を委託する事が許されています。外部に廃棄物処理を委託する事によって、排出事業者責任までも引き渡したような錯覚を生んでしまい、排出事業者責任に対する意識を下げることにも繋がっているのです。一方で、前述した通り廃棄物量は飽和しており、廃棄物処理会社は廃棄物の受入制限が必要となり、排出事業者を選別せざるを得なくなりました。廃棄物に対する責任や意識が低い事業者は自ずと選ばれにくくなり、排出企業は廃棄物の排出事業者責任から逃れられない状況となっています。

事業者の廃棄物処理における責任範囲は、二つに分かれます。一つは排出事業者の事業活動によって発生した廃棄物処理に対する自己責任の範囲、二つ目は社会全体で発生した廃棄物処理に対する社会的責任の範囲です。今後は、上記の間にあるサプライチェーン上にも処理責任の範囲が拡大されるべきであり、それによって、廃棄物処理の責任が企業の取引選定基準の一つとなる事で、日本企業全体の廃棄物に対する意識改革につながるのではないかと考えています。

※1 静脈産業：循環経済において関わる産業を人間の血液循環に例えて、資源を使ってモノを作る産業を「動脈産業」と呼び、産業が排出した不要物や使い捨てられた製品を集めて、社会や自然の物質循環過程に再投入するための事業を行っている産業を「静脈産業」と呼びます。

## ■代表取締役社長 恩田英久メッセージ



本書は、すべての企業の廃棄物・資源物に係る部門から経営層の方々まで、SDGs 達成に向けた施策および企業を取り巻くステークホルダーに向けた ESG メッセージとしてお役立ていただけます。そして、静脈産業に関わるプレイヤーの皆さまのマーケティング活動や設備投資、新規事業開発、商品開発等、事業活動の一助になればと強く願っております。本書の発行により、静脈産業は勿論のこと、廃棄物管理にはじまる環境マネジメントコンサルティングの存在意義が皆さまに理解され、業界の質の向上を図ることができましたら幸甚に存じます。

## ■『再資源化白書 2021』発行概要



タイトル：再資源化白書 2021

発刊者：株式会社サティスファクトリー

発刊日：2021年6月30日

価格：33,000円 税込

販売方法：直接販売

発刊部数：5,000部

提供形態：冊子/PDF データ

判型：A4

中面ページ数：225ページ（編集後記含む）

購入申し込みフォーム：<https://www.sfinter.com/hakusho/>

## ■会社概要

### 「社会を100年先につなぐ、社会課題解決」



サティスファクトリーは創業来このコンセプトを掲げ、企業の抱える産業廃棄物の回収・リサイクルをはじめとした環境課題に対して質の高いソリューションをご提供し、企業の持続的存続・発展を支援しています。資源利用から派生するサステナビリティ戦略や再生可能エネルギー戦略を支援するコンサルティングなど、環境/廃棄物マネジメント業のパイオニアとして、業種や規模、地域を問わず、全国で幅広くサービスを展開しています。

Satisfactory

株式会社サティスファクトリー  
東京都中央区八丁2-4-8 八丁ビル8階  
TEL: 03-5561-5100 (内線)  
URL: sfinter.com

# Satisfactory

所在地 : 東京都中央区八丁堀三丁目 12 番 8 号 HF 八丁堀ビルディング 8F  
代表者 : 代表取締役社長 恩田 英久  
設立 : 1996 年 11 月  
事業内容 : 廃棄物マネジメント事業、環境コンサルティング事業、環境教育事業、  
再生可能エネルギー事業、海外事業、再資源化プロダクト事業  
資本金 : 1 億円  
ウェブサイト : <https://www.sfinter.com/>